

9. プーチン大統領の2018年施政演説



2018年3月1日、プーチン大統領は、連邦議員を含むロシア指導者を集めて年次施政報告演説を行った。その中で大統領は、米国ブッシュ政権が2002年にABM条約を失効させ、弾道ミサイル防衛(BMD)の構築に走って以後、BMDに打ち勝つためにロシアが開発した新しい概念の戦略兵器の数々を大スクリーンに映し出して披歴した。新しい軍拡競争の始まりを告げた演説といっても過言ではない。本章11に新兵器を表にしている。

❖ ロシア連邦議会に対する大統領演説(抜粋) ❖

2018年3月1日

(前略)

米国が一方的に対弾道ミサイル(ABM)条約から脱退して以来、この十数年間、ロシアは、進んだ設備と武器の開発に集中的に取り組んできた。その結果、戦略兵器の新モデルの開発において大きな躍進を遂げることができた。

米国は、主に、弾道軌道をえがく戦略兵器を迎撃するため、世界規模のミサイル防衛(以下、BMD)システムを構築していることを想起してほしい。こうした戦略兵器は、他の核保有国と同様に、ロシアの核抑止力のバックボーンを形成している。

そのため、ロシアは、BMDシステムを無力化するために、完全で非常に効果的だが、価格をおさえたシステムを開発し、そのための取り組みを続けている。(後略)

加えて、ロシアは、次世代ミサイルの開発に乗り出した。例えば、国防省とミサイル及び航空宇宙産業の企業は、重量級の大陸間弾道ミサイルを含む新たなミサイルシステムの実験を活発に行う段階に入っている。我われは、それをサルマートと呼んでいる。サルマートは、ソ連で作られたポーボーダ・システムに取って替わることになるだろう。同システムの持つ計り知れない力は全世界に知られていた。(略)とは言え、サルマートのミサイル能力ははるかに高い。重量は200トン以上で、加速段階が短い。そのためBMDシステムにより迎撃するのがより困難になる。この新たな重量級ミサイルの射程距離、戦闘ブロックの数と力はポーボーダより大きい。(略)

しかし、我々はそれに止まらなかった。ターゲットに向かって移動するときに弾道軌道を全く使用しない新型の戦略兵器の開発を始めた。(略)それらの1つは、ロシア最新のX-101空中発射ミサイルや米国のトマホークミサイルのようなミサイルに搭載可能な小規模で頑丈な原子力ユニットである(略)核弾頭を搭載した低空飛行ステルス・ミサイルで、制約がほとんどない射程、予測不可能な軌道、迎撃境界を迂回する能力を備えている。(略)

さて、我々は、無人兵器システムの設計と開発が、世界のもう一つの共通の傾向であることを知っている。ロシアは、最速のものを含む潜水艦、最先端の魚雷、あらゆる種類の水陸両用艦艇の速度よりも数倍の速度で、非常に深い所(極度に深い所と言ってもよい)大陸間で移動可能な無人潜水機を開発した。(略)

最新の兵器システムの開発において最も重要なものは、高精度の極超音速空中発射ミサイルシステムの構築であった。(略)同システムの実験は成功裏に完了し、さらに、昨年12月1日、同システムは、南部軍管区内のいくつかの飛行場において試験的な運用を開始した。高速の運搬航空機の持つ飛行上のユニークな特性により、数分以内でミサイルを発射地点に運搬することができる。2000キロ以上の射程距離を持ち、核及び通常弾頭を運搬する音速の10倍速い極超音速で飛行するミサイルは、飛行軌道のあらゆる段階で操縦可能であり、そのため、既存の全ての、そして私が思うに、将来開発される防空及びミサイル防衛システムを無効にすることも可能である。我われは同システムをキンジャル(短剣)と呼んだ。

(略)

ロシアは、誰も脅していないし、誰も攻撃しないし、兵器で脅して誰かから何か奪うつもりもない。ロシアは何も欲していない。その真逆である。私は、増え続けるロシアの軍事力は、世界平和のための確固たる保証であると強調する必要があると(そして、これはとても重要であると)考える。

(略)

核兵器使用のハードルを下げる機会を拡大する、改訂された米国の核態勢見直し(NPR)の中のいくつかの項目にロシアは深刻な懸念を抱いている。(略)そして、核態勢見直しに書かれているのは、通常兵器による攻撃及び、サイバー空間での脅威に対してさえ、この戦略が実行に移され得るということである。核による攻撃、または、その他の大量破壊兵器によるロシアまたは同盟国への攻撃、または、通常兵器を使用した、まさに国家の存亡を脅かすロシアへの侵略行動に対してのみ、ロシアは核兵器を使用する権利を保有するとロシアの軍事ドクトリンに書かれていることを指摘しなければならない。これらは全て明確で具体的である。

(前略)ロシアまたは同盟国に対するあらゆる核兵器の使用は、短距離であれ、中距離であれ、いかなる射程距離のものであっても、ロシアに対する核攻撃とみなすだろう。(ロシアは)直ちに報復を行い、それに付随するすべての影響が生じるだろう

このことについて、いかなる疑念も存在しない。世界にこれ以上脅威を創り出す必要は全くない。そうではなく、交渉のテーブルに着き、人類の文明のために国際的安全保障と持続可能な発展のための新たな意味のある体制をともに考案しよう。(中略)ロシアにはそうする用意がある。

ロシアの政策が例外主義の主張に基づくことは決してない。ロシアは自分たちの利益を守るとともに、他国の利益を尊重する。ロシアは国際法を遵守し、国連の持つ侵すことのできない中心的役割を信じている。それらは、ロシアが絶対多数の国ぐにと強固で、友好的で、対等な関係を築くことを可能にする原則及びアプローチである。(後略)

出典：ロシア大統領府HP

<http://en.kremlin.ru/events/president/transcripts/56957>

アクセス日：2020年3月23日

10. プーチン大統領の2019年施政演説



2019年2月20日、プーチン大統領は、連邦議員を含むロシア指導者を集めて年次施政報告演説を行った。大統領は、米国がロシアのINF全廃条約違反を一方向的に批判して条約を破棄した米国に対し、米国のルーマニアやポーランドへのイージス・アショア配備こそINF全廃条約に違反すると批判した。また、2018年の演説(本章9)に続いて、新戦略兵器の開発進展を誇示した。

❖ ロシア連邦議会に対する大統領演説(抜粋) ❖

2019年2月20日、モスクワ

(前略)

グローバルな競争がますます科学、技術、そして教育へと移行していることがわかる。つい最近まで、ロシアが国防において、飛躍的進歩を遂げることはあり得ないと、ましてやハイテク分野における飛躍的進歩を遂げることはあり得ないと思われた。これは困難で複雑な作業であった。多くのことを復興させ、あるいはゼロから始めなければならず、新境地を開拓し、大胆でユニークな解決策を見つけることが必要であった。それにもかかわらず、それはなし遂げられた。それは、これらのプロジェクトで育った非常に若い人々を含む、我が技術者、労働者、科学者によってなし遂げられたのだ。この大規模な取り組みの詳細のすべてを私は知っているとして改めて申し上げたい。そして、たとえば、戦略的極超音速滑空体アバンガードの開発は、世界初の人工衛星の打ち上げに匹敵すると言っても決して間違いではない。これは国の防衛能力と安全保障を強化する。それは主要な目標ではあるのだが、その点においてだけでなく、科学的潜在能力の強化と独自の技術資産の開発に対しても影響を与えるという点においてもそう言えるのである。

(略)

米国の中距離核戦力(INF)全廃条約からの一方向的な離脱は、最も緊急で最も議論されている米露関係の問題である。(略) 実際、1987年に条約が署名されて以降、世界では重要な変化が生まれている。多くの国が、こうした兵器を開発し、その改良を重ねている。しかし、ロシアと米国は違う。我々は、この分野については自由意思のもとで、我々自身を制限してきた。当然だが、こうした状況が問題を生んでいるのである。我々のパートナーである米国は、一方向的な条約からの離脱を正当化するためにこじつけの非難をロシアに浴びせるのではなく、ただ本当に正直に発言すればよかったのである。(略)

私がすでに説明した全ての事に取り組んだにも関わらず、米国はINF条約の4条と6条によって規定されている定めを、明らかにかつ厚かましく無視している。第4条1項によると「両国は、全ての中距離ミサイルとそのミサイルの発射装置を廃棄し、…そうすることで、…どのようなミサイルや発射装置も…どちらの締約国によっても保持されない」、第6条第1段落は「条約の発効後、いずれの締約国もいかなる中距離ミサイルの生産または飛行実験もしてはならず、そのよ

うなミサイルの発射台や発射装置をも生産してはならない」と規定する。

中距離目標ミサイルを使用することや、トマホーク巡航ミサイルの発射に対応する発射装置をルーマニアやポーランドに配備することで、米国はこうしたINF全廃条約の条項に公然と違反してきた。

(略)

私が昨年の演説で述べた有望な試作モデルと兵器システムに関する作業は予定通りに、そして中断なしに続けられている。我々は、(略)アバングルド・システムの連続生産を開始した。計画通り、今年、戦略ミサイル部隊の連隊が初めてアバングルドを装備する。前例のないパワーを有する超重量級の大陸間ミサイルであるサルマートは一連の実験を行っている。ペレスバート・レーザー兵器とキンジャル極超音速弾道ミサイルを搭載した飛行システムは、試験中および警戒任務中に独自の特性を証明し、同時に要員はそれらの操作方法を学んだ。来年12月、国軍に供給されたすべてのペレスバート・ミサイルが待機状態になるであろう。キンジャル・ミサイルを搭載したMiG-31迎撃装置のためのインフラストラクチャーを拡張し続けている。射程に制限がないブレベストロニクス原子力巡航ミサイルとポセイドン原子力無人潜水艦は正常に実験を行っている。

この文脈において、私は重要な宣言をしたいと思う。(略)今日、我々は、今春にこの無人機を運ぶ最初の原子力潜水艦が就航すると言うことができる。事業は計画通りに進んでいる。(略) もう一つの有望な技術革新は、およそマッハ9の速度に達することができ、水中でも地上でも1000km以上離れた目標を攻撃することができる極超音速ミサイル・ツィルコンである。それは高精度ミサイル・カリブルを運搬するために開発され建造されたものも含めて水上と水中から、すなわち、水上艦と潜水艦から発射することができる。

(略)

結論として、INF全廃条約からの米国による一方的な離脱について、言いたいことがある。近年のロシアに対する米国の政策は、友好的とはいえないものがある。ロシアの正当な利益は無視され、反ロシア・キャンペーンが絶えず行われており、国際法に照らして違法なさらに多くの制裁が何の理由もなく課されている。(略) 過去数十年にわたって形成されてきた国際的な安全保障構造は完全にそして一方的に解体されており、常にロシアは米国に対する主要な脅威に近い存在として言及されている。

(略)

持続可能な長期的発展のためには平和が必要であることをもう一度強調したい。防衛力を向上させるための我々の努力はただ一つの目的のためだけにある。つまり、誰も我々に圧力をかけたり、我々に対する攻撃を開始することさえ考えないように、この国と我々市民の安全を確保することである。

(後略)

出典：ロシア大統領府HP
<http://en.kremlin.ru/events/president/news/59863>
アクセス日：2020年3月23日